

### 滋賀医科大学医学部附属病院産科オープンシステムの問題点

- 産科オープンシステム登録症例と紹介症例との境界が不明瞭。
- 分娩室入室の時期など、分娩の取り扱い方法の相違。
- 分娩時立ち会いの可否。  
登録医のほとんどが自施設にて分娩を取り扱っているため、分娩時の立ち会いが困難となるケースがある。
- 分娩時立ち会いあるいは産後の回診を行って頂いた登録医師は、関連病医院の医師(3施設、4人)がほとんど。
- NICUの收容能力の限界(昨年10月からGCU3床併設)  
NICUベッド数:6床 GCUの併設がないため、收容能力に限界があり、本期間中に登録症例の院外母体搬送症例が3例存在した。

### 滋賀医科大学医学部附属病院産科オープンシステムの課題

医療の供給側である産婦人科医師と、受け手側である妊婦さんが、**妊娠のリスクを共有**する。



**ハイリスク妊婦の早期紹介の推進**し、**救急母体搬送を減少**させることにより、母児の安全を確保する。



単なる症例の**紹介と搬送**との相違点は？  
本来、**ハイリスク分娩のオープンシステム**は有効であるのか？  
三次医療機関である**大学病院でのオープンシステム**が持つ意義は？